奈良県・中国ゆかりの地紹介

第二弾　御蓋山（みかさやま）

今年は、奈良県と中国陝西省が 2011 年に友好提携を締結して 10 周年を迎える記念の年です。これを記念して、奈良県内にある奈良と中国とのゆかりの地、特に陝西省とのゆかりを中心にご紹介しています。第二弾となる今回は、阿倍仲麻呂にゆかりの御蓋山と仲麻呂の歌碑をご紹介します！

仲麻呂といえば、遣唐使や百人一首の歌を思い出す方が多いのではないでしょうか。『天の原 ふりさけ見れば 春日なる みかさの山に 出でし月かも』という仲麻呂が詠んだ日本への「望郷」の歌は、日本だけではなく、中国でも有名です。

遣唐使とは中国の唐（618－907）に派遣した使節のことで、当時の先進国であった唐の文化や制度を現地で学び、日本へ広める大きな役割を果たしました。奈良出身の阿倍仲麻呂（698－770）は遣唐使の代表的な人物です。717 年に唐の長安（現在の陝西省・西安市）へ留学し、唐の官僚になり、753 年にようやく唐の皇帝に帰国を許された時に詠んだのが、この一首です。

奈良県内には「三笠山」と「御蓋山」の２つの「みかさやま」がありますが、仲麻呂が詠んだのは「御蓋山」のことであるといわれています。春日大社の創建神話の舞台でもある「御蓋山」に向かって、遣唐使が唐への渡航前に航海の安全を祈りました。現在は「禁足地」になっています。仲麻呂は故郷奈良への思いをこの歌に込めたのではないでしょうか。残念ながら、仲麻呂は海難事故のために、帰国が叶わずに唐の地で亡くなりました。

（写真中央の明るい山が御蓋山）

今回私は、奈良県内の仲麻呂が詠んだこの歌が刻まれた３ヵ所の歌碑を巡りました。

① 歌にゆかりのある春日大社（奈良市）に歌碑が無いことを残念に思う篤志家が、2015 年春日大社に奉納した歌碑

② 仲麻呂の生誕地といわれている安倍文殊院（奈良県桜井市）に立てられた歌碑

③ 「平城京」の朱雀門から４ｋｍ南にある羅城門跡公園（奈良県大和郡山市）に立てられた歌碑

日中交流に多大な貢献を捧げた仲麻呂に対する想いは、中国でも日本でも同様であると大変感心し、また、仲麻呂の歌碑を巡ったことで、「望郷」の思いを一層深く理解することが出来ました。

（奈良県国際交流員　呉　春蘭）

① 歌碑（春日大社）

②歌碑（安倍文殊院）

③歌碑（羅城門跡）